

「謙虚な気持ちで援助活動を」

吉備国際大でボランティア・フォーラム

若者ら100人熱心に

AMD A 菅波さんら熱く語る

高梁市伊賀町の吉備国際大学国際交流会館で「ボランティア・フォーラム」明日のボランティア教育を考える」（高

梁学園主催）が3日、開かれ、若者たちを中心に約100人が参加、識者の発表に耳を傾けた。

同大では、00年4月に

「福祉ボランティア学科」、03年4月にボランティアセンターを設立し、人材育成や活動に力を入れている。

国際医療援助団体「AMD A」の菅波茂理事長は、ボランティアをする際の心構えについて紹介。「AMD Aでの経験

から私も反省している」とだが、活動をしている間に自分たちは援助をしてやっていると特別意識を持ってしまっている。

先進国、発展途上国にかかわらず他人を助けたいという気持ちは誰でも持っている。阪神大震災の時は、タイのスラム

の子どもたちからの援助もあった。自分はたまたまチャンスを与えてもら

っているんだという謙虚な気持ちを持ってほしい」と述べ、「援助をして『ありがとう』と言われて喜んでくれるのはセ

ミプロ。相手に対し、自分から『ありがとう』と言える状況になってこそ真のボランティアだと

熱く語った。

また、早稲田大学・平山郁夫記念ボランティア

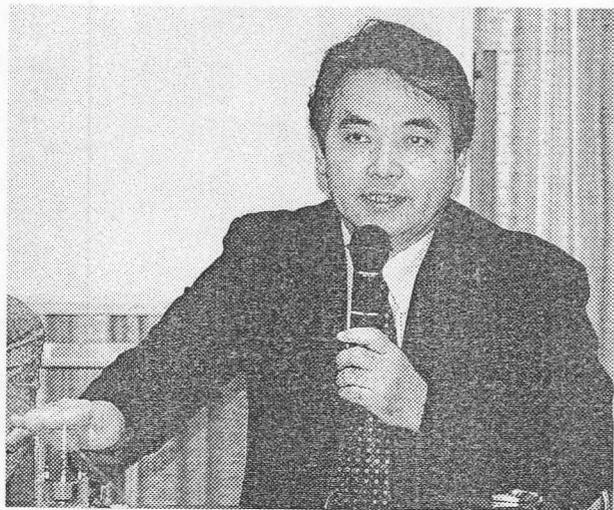
センター事務長の山口博之さんは、同センターが

取り組んでいる中国ハン

セン治療養所の支援プロジェクトや富士山の清掃プロジェクトなどについて

て実例を上げて紹介。塚田健二・同大ボランティアセンター副センター長は、聴覚障害など身体障害のある学生が講義を受ける際、内容をリアルタイムに伝える「ノートテイク」と呼ばれる支援の同大での取り組みなどについて解説した。

【植田憲尚】



ボランティアの心構えを語るAMD Aの菅波茂理事長

高梁市の吉備国際大で

取り組んでいる中国ハン